



(第9期) まつもと子ども未来委員会 市への提言の報告

11月19日(日)に^{きんろうしやふくし}勤労者福祉センターで「松本子どもの権利の日」市民フォーラムが開催され、市への提言を行いました。

この日は、委員32人と大学生サポーター2人が参加しました。

1 提言の様子



2 伊佐治教育長・臥雲市長のコメント

(1) 生活の改善(校則)

【教育長】

皆さん、校則について言いたいことが一杯あると改めて感じました。なかなか学校でも変えていくことができない部分かなと思います。

子どもの自由は、規律ある学校生活のために一定程度制限されるべきだという、ルールというか、学校の常識というのがまだ残っていると思います。

しかし、これは変えていかななくてはいけないと私は思っています。そのためには2つの方法があり、まず、授業の中で子どもたちの主体性を大事にすること、これは今、校長先生や先生方をお願いして取り組んでいます。2つ目は、校則とか制服とか、みんなから目に見える形で、形から入っていくということ、これも変えていく必要があると思います。

この2つが両輪となることで、子どもたちが主体的に、いきいきのびのびと過ごせる、学べる、そんな場になっていくと思うので、皆さんの提言はしっかり学校の先生方に伝えていきます。

こども基本法には、子どもの権利擁護や意見表明の機会を大切にすることが法律上位置づけられています。例えば、学校では校則の見直し、こういうことにおいて児童生徒の意見を尊重していくこと、このことが大事にされるべきだということがしっかり述べられています。

そのため、法律ができてから、校長先生や先生たちの研修の機会でこのことを紹介して、学校で取り組んでくださいとお願いしています。なかなかすぐには変えられないかもしれませんが、しっかり取り組んでいきます。

【市長】

校則について話し合う時間を設けることはできます。中学生は、校則について話し合う時間を設けてほしいと、先生にどんどん言ってもらえれば変えられるところがあると思います。

定期的なアンケートを実施することについては、それぞれで行うと、なかなか先生方を動かすというところまでにはなりにくいと思います。学校ごとに行っていないということであれば、生徒会など、少しまとまった形で行った方が、皆さんの意見は通りやすくなると思います。

(2) 生活の改善（通学路）

【教育長】

道路は、国道や県道、市道というように管理をする人が違って、皆さんが通う時にここは危険だなと思う箇所を市長が変えようと思っても、それが国道だったりすると、国道事務所の人にやらなければいけないと思ってもらわないと対応してもらえません。だから、いろんな人が一緒になって協議会というものを作って、1年に1回必ず点検を行っています。

協議会が実際に道路の点検をするときに、学校の代表、例えば生徒会長とか、委員の人に来てもらって、子どもも一緒に回るのも良いと思います。

子どもにアンケートを取ってほしいということについては、道がでこぼこしているとか、ゴミ捨て場のゴミがあるときに通りにくいとか、毎日そこを通っている子どもたちでないといけないこともあるので、貴重な提言をいただいたと思います。

【市長】

松本市の公式ラインの中に道路の補修について何か気がついたことがあったら、写真と併せて送ってもらえる仕組みを作っています。

皆さんが気付いた通学路の現状をどのようにしたら松本市に届けてもらえるかということは検討していきたいと思います。1年に何回かまとめてアンケートするというよりは、気が付いたことをすぐ届けてもらう仕組みを作ることが道路の要望では大切だと思います。

通学路は、それぞれの地域の人たちからも一番安全を優先してほしいという要望があるので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

(3) 自然の保護（里山の保全）

【教育長】

里山は、松本の魅力を形成している大事な要素かもしれないということを気付かせてもらいました。

里山管理の担い手不足という課題に対して、一緒になって、体験しながら、そして参加しながらやってもらうということは、とても良いことだと思います。

【市長】

里山を管理する担い手がなかなか広がらないという課題に対して、キャンプやゲーム性のあるイベントによって子どもたちの関心を高め、将来の里山の担い手の確保につなげていくというアプローチは非常に大切だと思います。

このことに近い取り組みとしては、1年に1回アルプス公園で、ネイチャリングフェスタというイベントを松本市も関わって行っています。里山とか、自然と触れあって、子どもたちが将来大人になっても里山や自然と共生していけるような、そういうことにつなげていこうというイベントですが、今の子どもたちがもっと興味が湧くような、ワクワクする企画を提案してもらえたらと思います。

ネイチャリングフェスタのように既に実施しているイベントもあるので、それらをもっと盛り上げる形でも関わってもらえたらと思います。

(4) ボランティア（ゴミの問題）

【教育長】

ゴミの問題は決まりがあってもなかなか実現できない、1人1人の意識が変わっていかねば実現できないことだと思います。歩いているときにゴミを拾う、拾わないということは、個人の意思に任されていることですが、そういうことこそ、市が取り組むべき難しい問題だと思います。

松本市が県内の市の中でゴミの排出量が一番多いのは、事業系のゴミがすごく多いということがあります。これは飲食店が多かったり、旅館とかホテルが多かったり、そういうこともあると思いますが、そのゴミをなくすために30・10（さんまる いちまる）運動という、食品ロスを削減するための活動も行っています。

皆さんの中に、来年もゴミのことを考えていきたいという委員がいたら、この事もゴミの全体量を減らすために大事なことなので調べて整理してもらえると良いと思います。

【市長】

一般の人が率先してゴミ拾いをしたくなるようなボランティアについて、今、松本市ではそれぞれの町会、あるいは松本市一斉でゴミ拾いを行っていますが、もっとやりたくなるためには、どういうことが必要だと思いますか。

松本市では、環境業務課が担当課となりますが、職員からは出てこないような発想が必要だと思います。課長や係長と未来委員会のメンバーと一緒に考える時間を設けて、具体的にいろいろ知恵を出してもらって、実際の政策に結び付けられるように考えていければと思います。

ユニークなゴミ箱の設置について、ゴミ箱を設けるとすごくゴミが増えてしまうという現実もあって、自分たちで持って帰ってもらった方が良く、そういう視点も持って考えなければいけないということもあります。

(5) PR

【教育長】

子ども目線で資料を作るという提言について、子ども目線でできていないことの一つの例だと思います。しかし、子どもにもわかるようにということは、乳幼児もいれば、小学生、中学生もいる中で、どの辺を対象としていくかということは難しいことだと思います。私達はいろいろなことを説明するときに、小学校5年生ぐらいがわかるように説明しようと心がけています。そのぐらいの対象に絞って、意識してPRすることが大事だと思います。

歴史の里のパンフレットがわかりづらいということなので、確認して見直していきたいと思います。

子ども目線で面白いものをPRしてほしいということですが、大人は子ども心を忘れてしまっている人が多いので、子ども目線というのは皆さんにしかわかりません。ぜひこの委員会でこれをPRしていこうというものをピックアップしてもらって、みんなも一緒にPRの動画を作ったり、パンフレットを作ったりしてもらいたいと思います。市長が力を入れているシンカチャンネルにも出てもらったらいいなと思います。

【市長】

市役所の中でよく言っているのは、いろいろな事業とか政策をやっても、市民の皆さんに伝わらないと、結局利用してもらえないということです。私よく知らないという声が多く多いです。今はインターネットが普及して、それほどお金をかけなくても情報を伝達したり、拡散したりすることができるようになり、松本市では常にいろいろな形で発信していこうと思っています。

それを小学生向けにもっとやってほしいということですが、それは、皆さんたちからすれば当然のことで、今までは大人向け、せいぜい中学生以上がわかるように伝えてきました。例えば、パンフレットを作る、そしてそれを届けることはすごくお金がかかりましたが、インターネット上の情報の発信、PRとなると、大人向け、子ども向けを作っただけでそれぞれ見てもらえるようにしても、2倍、3倍とかかるわけではないので、これは市役所の意識の問題だと思います。

小学生以下向けにもしっかり物事を伝えていく、そうすることで、いずれ皆さんが大人になっていった時に、松本市のことをもっと考えてもらうということになると思います。パンフレットを作るというよりは、インターネットを通じて、また、一人一台端末を通じて新しい情報を小学生以下向けにも届けるということを意識していきたいです。